

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

肝胆膵手術におけるグレリン研究予定の概要と現在の進捗状況

研究分担者 七島 篤志
（長崎大学医歯薬学総合研究科 腫瘍外科 准教授）

研究要旨

肝胆膵外科手術は高度な外科的侵襲により、食欲不振など消化器症状の出現率が高く、栄養状態が高度に低下する。これらの病態のグレリンの動態解明および投与による病態改善が本研究の目的と考える。またグレリン投与を前提とした担癌状態に与えるグレリンの影響、膵切除後の膵液漏への影響を調べることに研究テーマを定めた。

A. 研究目的

肝胆膵癌患者の外科手術におけるグレリン動態解明と投与による消化器症状や低栄養の改善、担癌状態や膵液漏への影響の解明。

多彩な消化管分泌刺激をもたらすグレリンであるが、膵液漏モデルで膵液漏を助長することはなかった。グレリンの人への膵切除後長期経過患者への投与は安全性の面で異常はなかった。

B. 研究方法

ラットモデルにおける担癌、膵液漏モデルでのグレリン投与。ヒト肝胆膵癌手術患者での血中グレリンの術後変化測定、グレリン投与による摂食・栄養状態改善に関する臨床介入試験。

E. 結論

グレリンは人へ安全に投与できる可能性がある。また動物レベルでの膵液漏助長作用はなく、今後、人での術後早期の投与も安全に投与できる可能性がある。

（倫理面への配慮）

グレリン測定や介入試験における IRB 承認取得や患者同意取得。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入。

C. 研究結果

ラット膵液漏モデルにおいてグレリンは膵液漏の悪化を惹起せず。グレリン投与に関する環境整備を確立し、1例介入試験を実施した。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

なし

D. 考察

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし